

第3章 構 築 工

第1．コンクリート工及びモルタル工

1．コンクリート工

(1) 適用範囲

本資料は、次表に示す一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。

ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、並びに橋梁床版の養生工には適用しない。

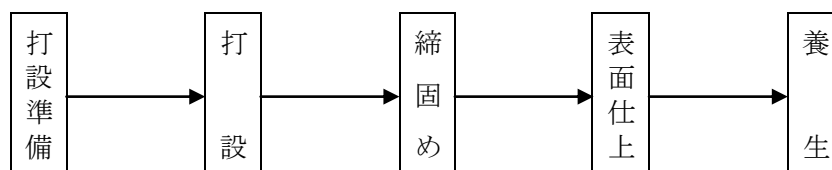


表1－1 コンクリート構造物の分類及び標準適用配合

構造物種別	コンクリート構造物の分類	標準適用配合
無筋構造物	マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物、均しコンクリート等 (例) 均しコンクリート、水道管保護コンクリート	B ₁ ～B ₆ C ₁ 、C ₂
鉄筋構造物	水路、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、橋梁床版、壁高欄等の鉄筋量の多い構造物 (例) 水道弁室、複雑な水道用保護コンクリート	A ₁ ～A ₆ B ₁ ～B ₆
小型構造物	1) コンクリート断面積が1 m ² 以下の連続している構造物 2) コンクリート量が1 m ³ 以下の点状構造物 (例) 側溝、照明、標識、防護柵等の基礎、集水枿、蓋板、コンクリート枠（現場打のみ）、目地コンクリート、目詰コンクリート、裏込コンクリート	C ₁
建設局管理の道路構造物	道路構造物（街渠、側溝、縁石、境界石等）	B ₅

(2) コンクリート打設工法の選定

「平成25年度国土交通省土木工事標準積算基準書 II－4－①コンクリート工2．コンクリート打設工法の選定」によるものとする。

(3) 材料の使用量

ア．材料の使用量は、「平成25年度国土交通省土木工事標準積算基準書 II－4－①コンクリート工3．材料の使用量」によるものとする。

イ. コンクリート生産の場合の材料の使用量

使用量＝設計量×（１＋K）……………（式１－１）

K：ロス率

表１－２ ロス率（K）

種 別	構 造 物 種 別	ロ ス 率
手練コンクリート	小型構造物	+0.06

（４） コンクリート打設施工歩掛

「平成25年度国土交通省土木工事標準積算基準書 Ⅱ－４－①コンクリート工４．～
 ７．」によるものとする。

（５） 養 生 工

「平成26年度国土交通省土木工事標準積算基準書 Ⅱ－４－①コンクリート工４－２．養
 生工」によるものとする。

（６） 手練りコンクリート

曲管保護工等において現場練りコンクリートを使用する場合は、次表を標準とする。

表１－３ コンクリート手練り歩掛表 (1 m³当り)

コンクリート	特殊作業員（人）	普通作業員（人）	補正係数
呼び強度18N／mm ²	0.95	0.25	表1-2

手練りコンクリート配合（コンクリート標準配合表より）

コンクリート	セメント（Kg）	細骨材（m ³ ）	粗骨材（m ³ ）
C ₁ 配合（高炉B） 18－8－20	（単位量 274 kg） 274kg	（単位量 806 kg） 0.55m³	（単位量 1011 kg） 0.64m³

（７） モルタル練工

ア. モルタル材料及び歩掛

「平成25年度国土交通省土木工事標準積算基準書 Ⅱ－４－①コンクリート工10. モル
 タル練工」によるものとする。

イ．モルタル上塗歩掛

表 1－4 モルタル上塗歩掛表 (1 m²当り)

種 別	労 力		適 用
	左 官	普通作業員	
モルタル上塗 (厚 1 cm)	0.15	0.05	壁 面
	0.05	0.04	床 面

(注) 塗面積の大小作業の難易により適当な値を用いること。

2. 単 価 表

「平成25年度国土交通省土木工事標準積算基準書 II－4－①コンクリート工11. 単価表」及び「平成26年度国土交通省土木工事標準積算基準書 II－4－①コンクリート工5. 単価表」によるものとする。

第2. 型 枠 工

「平成25年度国土交通省土木工事標準積算基準書 II－4－②－1型枠工」によるものとする。

第3. 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工

「平成25年度国土交通省土木工事標準積算基準書 II－2－②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」によるものとする。

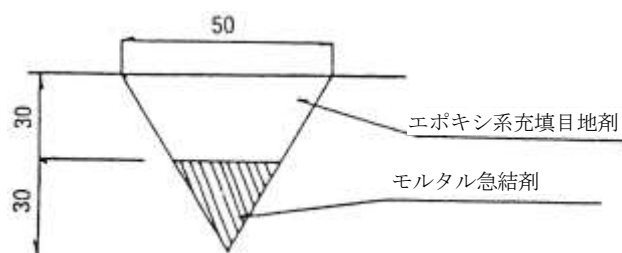
第4．Vカット止水工

1．積算基準

(1) 適用範囲

本歩掛は、暗渠及び池状構造物の止水工事に適用する。

(2) 防水工標準図



$$\begin{aligned}
 & \text{モルタル急結剤} \quad W_1 = 0.03 \times 0.025 \times \frac{1}{2} \times 1.0 \times 2.9 \times 10^3 \times 1.2 = 1.31 \text{ kg/m} \\
 & \text{エポキシ系充填目地剤} \quad W_2 = (0.025 + 0.05) / 2 \times 0.03 \times 1.0 \times 1.65 \times 10^3 \times 1.15 \\
 & \quad \quad \quad = 2.13 \text{ kg/m}
 \end{aligned}$$

$$\text{乾燥状態} \quad \text{エポキシ系充填目地剤} \quad W = 0.06 \times 0.05 \times \frac{1}{2} \times 1.0 \times 1.65 \times 10^3 \times 1.15 = 2.85 \text{ kg/m}$$

2．はつり、止水、充填、雑工歩掛

(1 m 当り)

工 種	労 力	乾燥状態止水工		漏水状態止水工	
		施工性難	施工性良	施工性難	施工性良
は っ り 工	は っ り 工 (人)	0.1	0.07	0.2	0.14
	普通作業員 (人)	0.1	0.07	0.2	0.14
止 水 工	左 官 (人)	—	—	0.2	0.2
	普通作業員 (人)	—	—	0.2	0.2
充 填 工	左 官 (人)	0.2	0.2	0.2	0.2
	普通作業員 (人)	0.2	0.2	0.2	0.2
雑 工	普通作業員 (人)	0.1	0.05	0.1	0.05

(注) 1．諸雑費は材料費の5%とする。

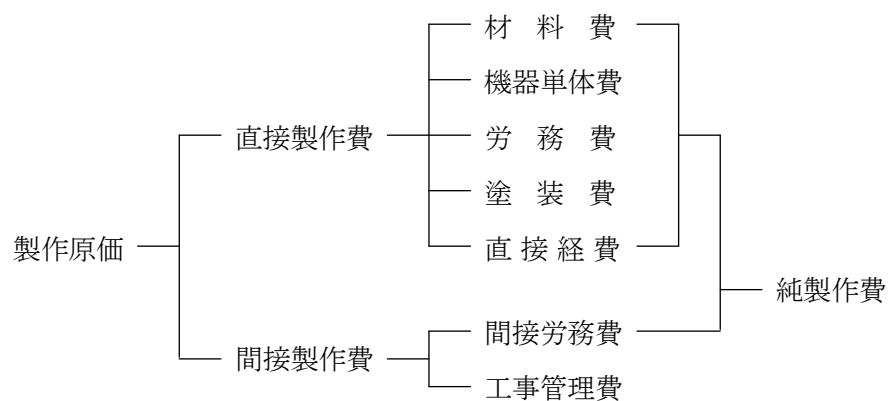
2．はつりガラの小運搬、処分費を含む。

第5．鋼製付属設備製作工及び据付工

「平成26年度国土交通省土木工事標準積算基準書 IX - 14鋼製付属設備」によるものとする。

1．鋼材製作工

(1) 製作工の構成は下記のとおりとする。



2．鋼材据付工

(1) 据付工の構成は下記のとおりである。

